

平成18年度流通システム標準化事業「普及説明会」

『商品マスターデータ等の同期化』

マスターメンテナンスの効率化を目指して

GCIジャパン GDSWG

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

- 日雑、酒類・加工食品のメーカーおよび卸、小売、ITベンダーによるユーザー企業の任意団体
*84社（2006年7月現在）
- 2002年GCI研究会として発足し、2005年4月に日本GCI推進協議会(略称:GCIジャパン)となる。
- グローバル・コマース・イニシアティブ(GCI)、GS1と連携して、日本における製配販が一体となり、効率的で高品質な流通システムの実現を目指すことを目的とする。
- 4つのワーキンググループによる活動
GDS、XML-EDI、RFID、スコアカード

製配販3層とCPG合同
ユーザー主導
海外との対話

2006年7月現在 84社

(1. 正会員 39社)

アサヒビール(株)	日本コカ・コーラグループ
味の素(株)	ネスレ日本(株)
イオン(株)	ハウス食品(株)
伊藤忠食品(株)	(株)パルタック
(株)イトーヨーカ堂	P & Gジャパン(株)
花王(株)	三井食品(株)
カゴメ(株)	三井物産(株)
加藤産業(株)	(株)ミツカングループ本社
キッコーマン(株)	三菱商事(株)
キューピー(株)	明治屋商事(株)
麒麟ビール(株)	(株)ヤマダ電機
国分(株)	ユニー(株)
サッポロビール(株)	ユニ・チャーム(株)
サンスター(株)	ユニリーバ・ジャパン(株)
サントリー(株)	ライオン(株)
(株)シジシージャパン	(株)菱食
(株)資生堂	
(株)西友	
(株)ニチレイ	
日清オイリオグループ(株)	
(株)日清製粉グループ本社	
(株)日本アクセス	
日本水産(株)	

(2. 準会員 14社)

イズミヤ(株)
 エステー化学(株)
 (株)大木
 (株)カネボウ化粧品
 カルピス(株)
 小林製薬(株)
 (株)J-オイルミルズ
 中央物産(株)
 (株)東急ストア
 (株)ナックスナカムラ
 (株)マンダム
 (株)三越
 明治乳業(株)
 日本ロレアル(株)

(3. 賛助会員 31社)

アジェントリクス
 (株)インターネットイニシアティブ
 (株)インテージ
 (株)インテック
 (株)NTTデータ
 SAPジャパン(株)
 (株)サイバーリンクス

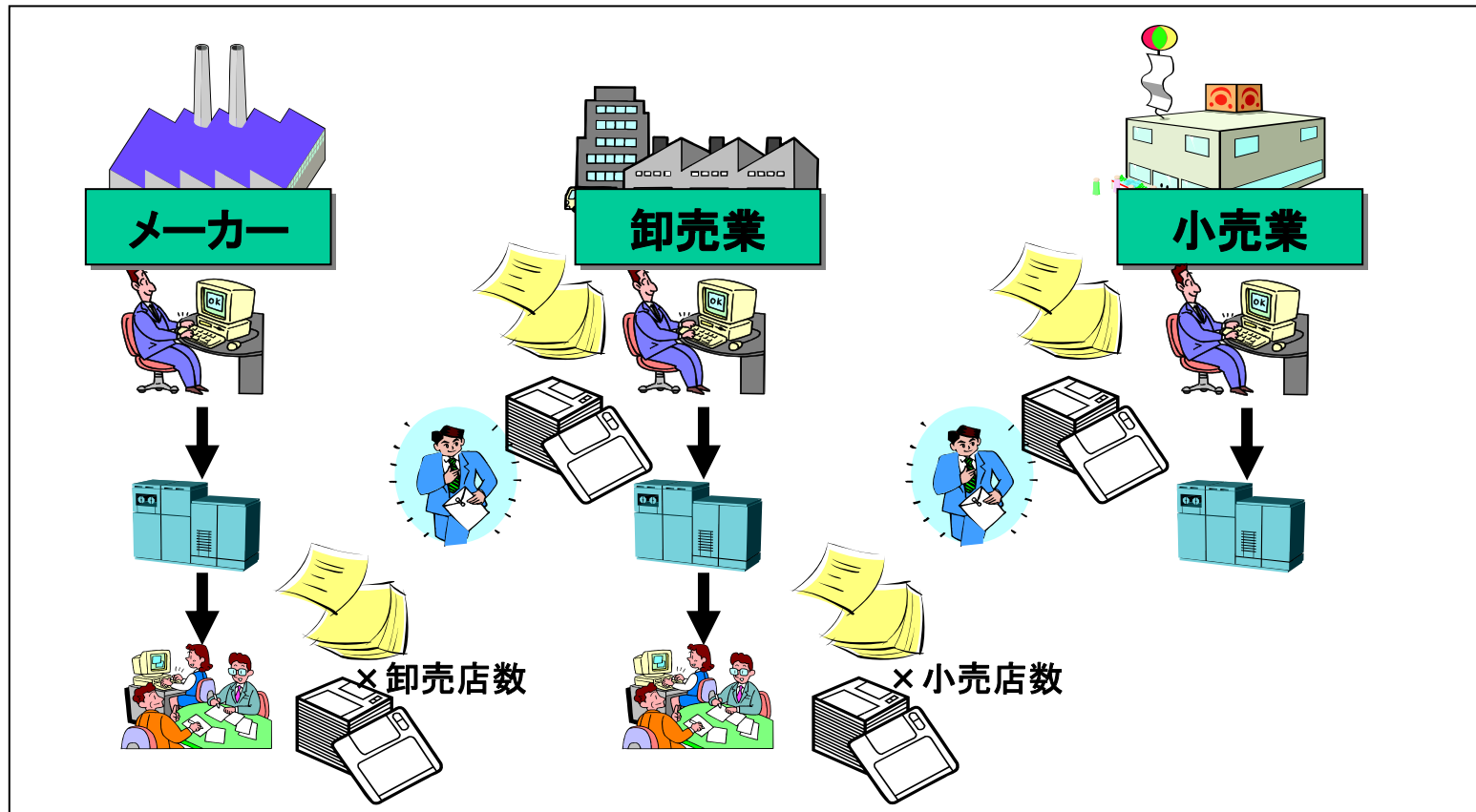
サン・マイクロシステムズ(株)
 GX Sジャパン(株)
 シスコシステムズ(株)
 大日本印刷(株)
 (株)データ・アプリケーション
 東芝ソリューション(株)
 東芝テック(株)
 東洋ビジネスエンジニアリング(株)
 凸版印刷(株)
 トッパン・フォームズ(株)
 日本アイ・ビー・エム(株)
 日本オラクル(株)
 日本電気(株)
 日本ベリサイン(株)
 日本ユニシス(株)
 (株)ニュートラル
 (株)野村総合研究所
 (株)日立製作所
 (株)ファイネット
 富士通(株)
 富士通エフ・アイ・ピー(株)
 (株)プラネット
 マイクロソフト(株)
 (株)三菱総合研究所

- ・グローバルな事業活動を展開する消費財メーカーと卸小売業により、 99年10月に設立された任意団体。
- ・GCIの目的は、顧客満足度の向上を図るために、グローバルなレベルで消費財サプライチェーンのパフォーマンスの改善を図ること。
このため、主として電子商取引に関する標準化を推進。
- ・GS1、VICSなど7団体がGCIのスポンサー団体。



1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

商品マスタ登録の現状（従来の流れ）

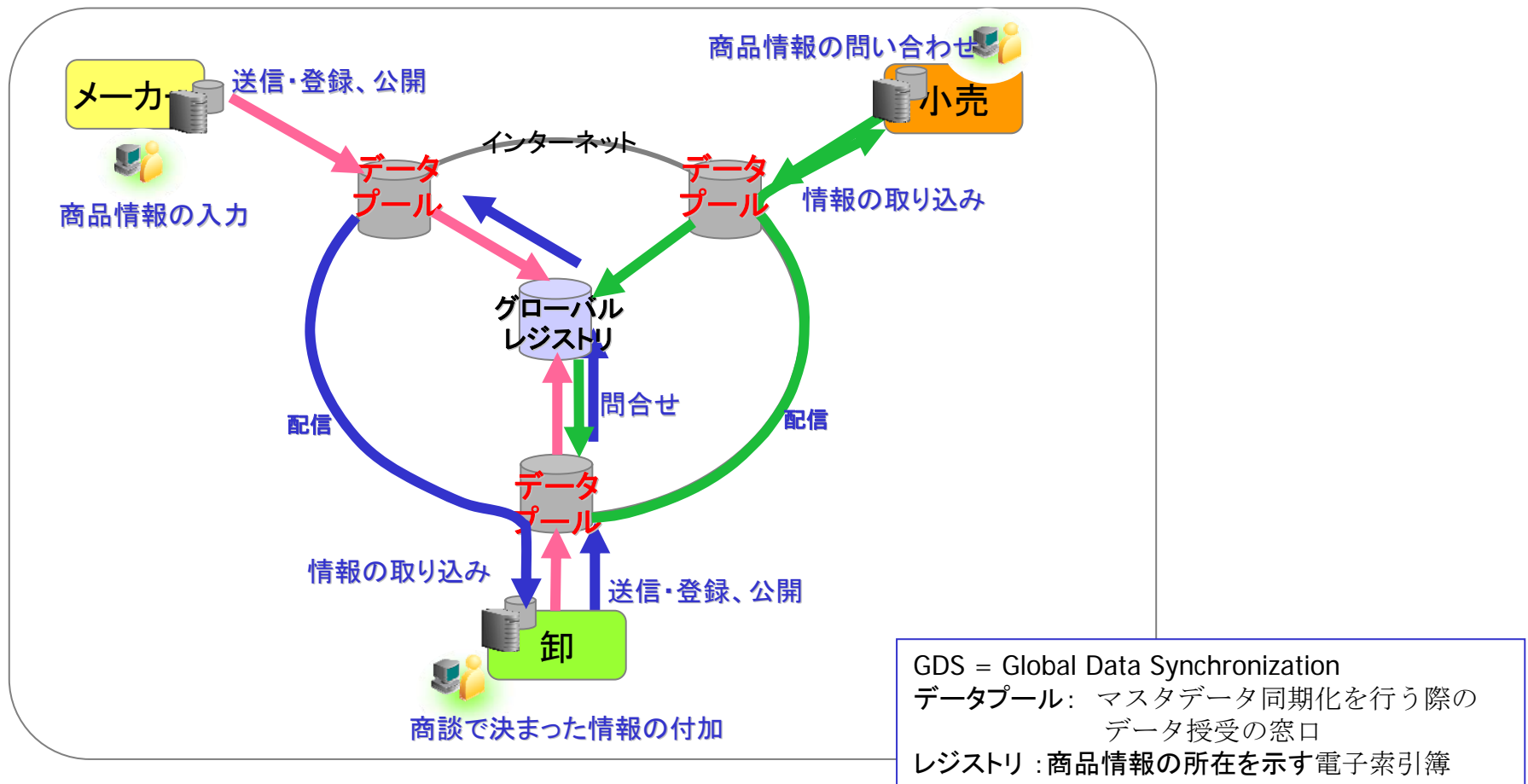


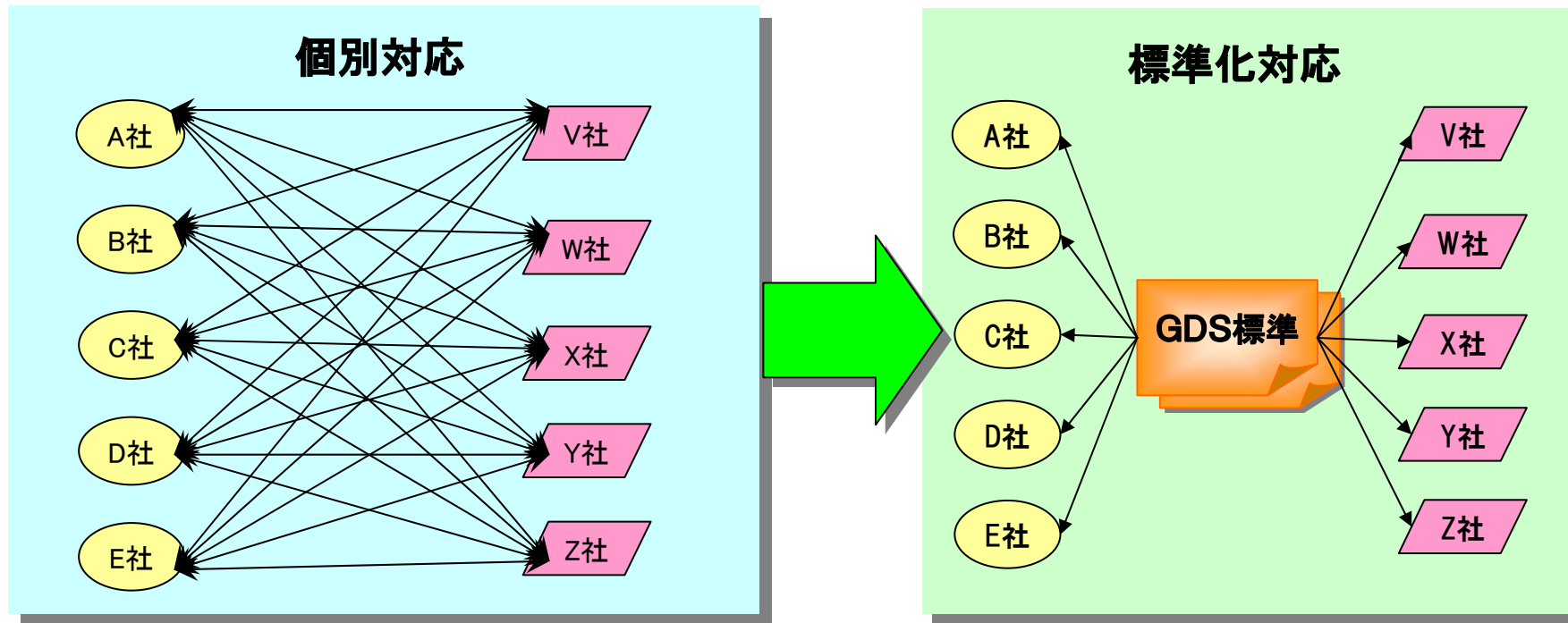
- 個別様式への転記作業と再入力作業の繰り返し
- 固有のコードでの変換作業が発生

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

商品マスターデータ同期化(GDS)とは

- メーカー、卸、リテーラーの間で、商取引に必要な商品に関する情報の新規登録・更新・削除を、データプール(第三者)を介して、共有し同期をとること。

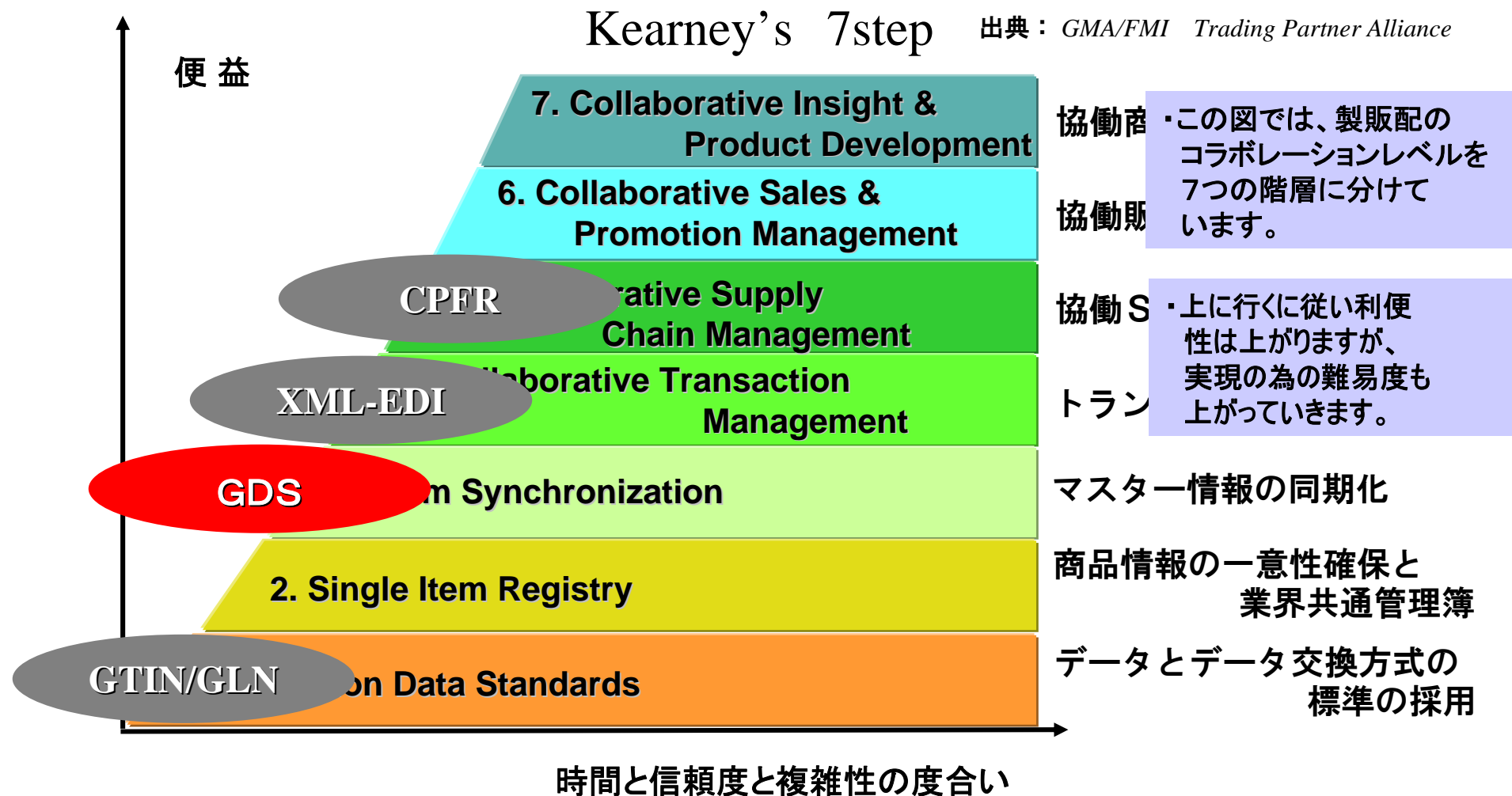




- ・データフォーマット、通信手順などの標準化による個別対応の削減
- ・データプール経由の接続による接続経路の共通化

GDS = Global Data Synchronization

GDSと企業間コラボレーションの位置づけ

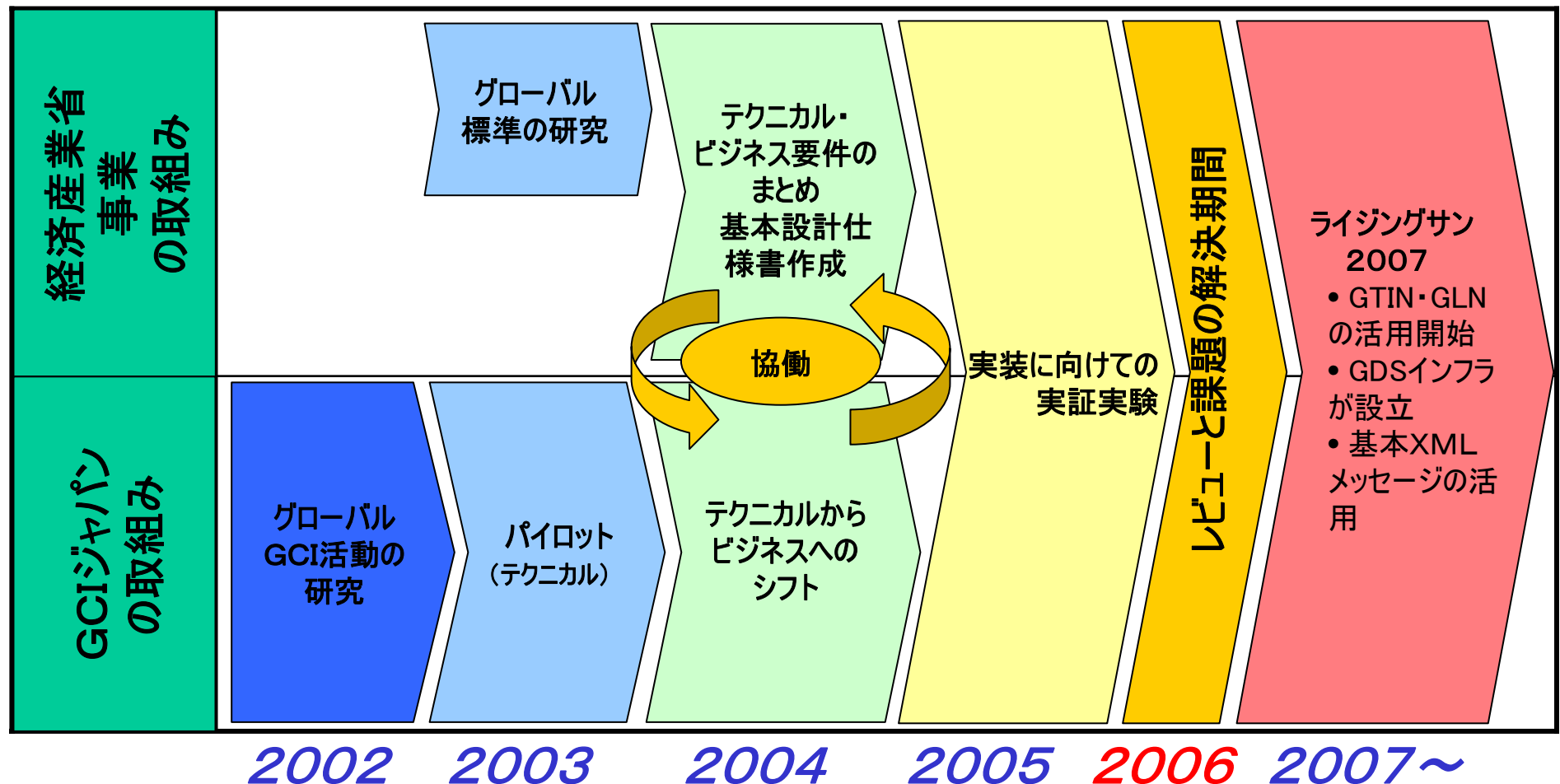


1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

GDS実用化へのロードマップ

2007年の「実用化」に向けて、06年度は「レビューと課題の解決期間」と位置づけている。

◆ライジングサン2007に向けて



整備すべき物

- ✓ GDS仕組みの構築
 - ✓ システム(データプール、Pub-Sub、等)
 - ✓ 運用プロセス(登録、変更、削除 等)
- ✓ マスタ項目、仕様、ルールの徹底
- ✓ グローバルとの協調
- ✓ 運営組織(標準化プロセスの徹底)

	備考
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・GCIJの推進するGDS標準・ルールを活用できる企業も参加可能。 ・中小規模の企業向け対応は、2008年以降とする。
小売、	<ul style="list-style-type: none"> ・菓子、大衆薬、文具が08年以降、比較的早い時期で実用化を目指す。 ・他に日配品、アパレル、家電、....

実装の姿

- ✓ 製配販の各層を代表する企業が参加
- ✓ 日用品、酒類、加工食品、化粧品、冷凍食品...
- ✓ 「受発注」～「入出荷・検品」に関するEDIおよび「小売店店頭販売」業務に必要なマスタ項目...
- ✓ グローバル標準の相互運用性の確保
- ✓ GDS参加企業が、一部GTIN, GLNを利用している。(新製品から)

Pub-Sub : Publication(公開) - Subscription(購読)
 マスタデータ同期化を実施するのに必要な機能

データプール: マスタデータ同期化を行う際にデータ授受の窓口となるデータベース事業者

GDSのしくみを実用化を実現させるためには、

- 商品マスタ同期化を実用させる(スタートラインを切る)ための活動
- スタート後、運用を継続するにあたっての活動

の2つの側面が必要。

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動ー実用開始に向けて
7. まとめ

【目的】

我が国における商品マスタデータ同期化システム(GDS)の本格運用を目指し、製・配・販が協働で策定した、マスタデータ項目標準と、プロセス標準を基本的に用いて、製・配・販一気通貫でデータ同期化を行うことによって、

- －「実業務として採用できるのか？」
- －「実業務として採用した場合、どのような効果が得られるのか？」

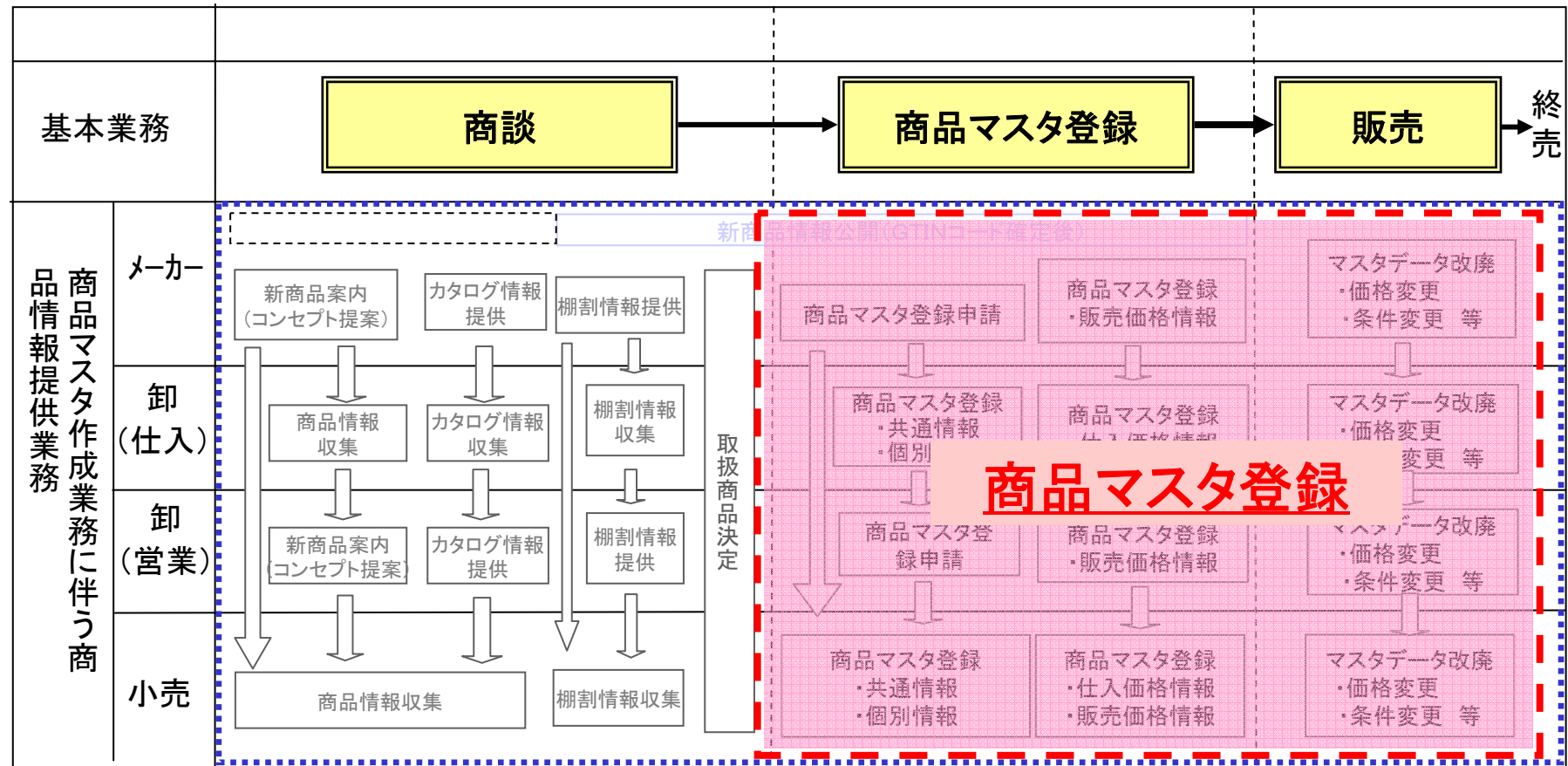
をできる限り本番に近い業務環境で検証し、その検証成果を広く公開することが目的である。

【商品マスタ項目】

- 小売業がお互いの商品マスタ項目を出し合い、必要なマスタ項目の共通化および絞込みを行った。
- それをもとに、GDSWGのメンバー(製配販三層)で議論し、実証開始時点での標準マスタ項目一覧を作成し、実証実験へ提供した。
- 商品階層(バラ、中箱、外箱、パレット)への対応を行った。

【実証実験の対象業務】

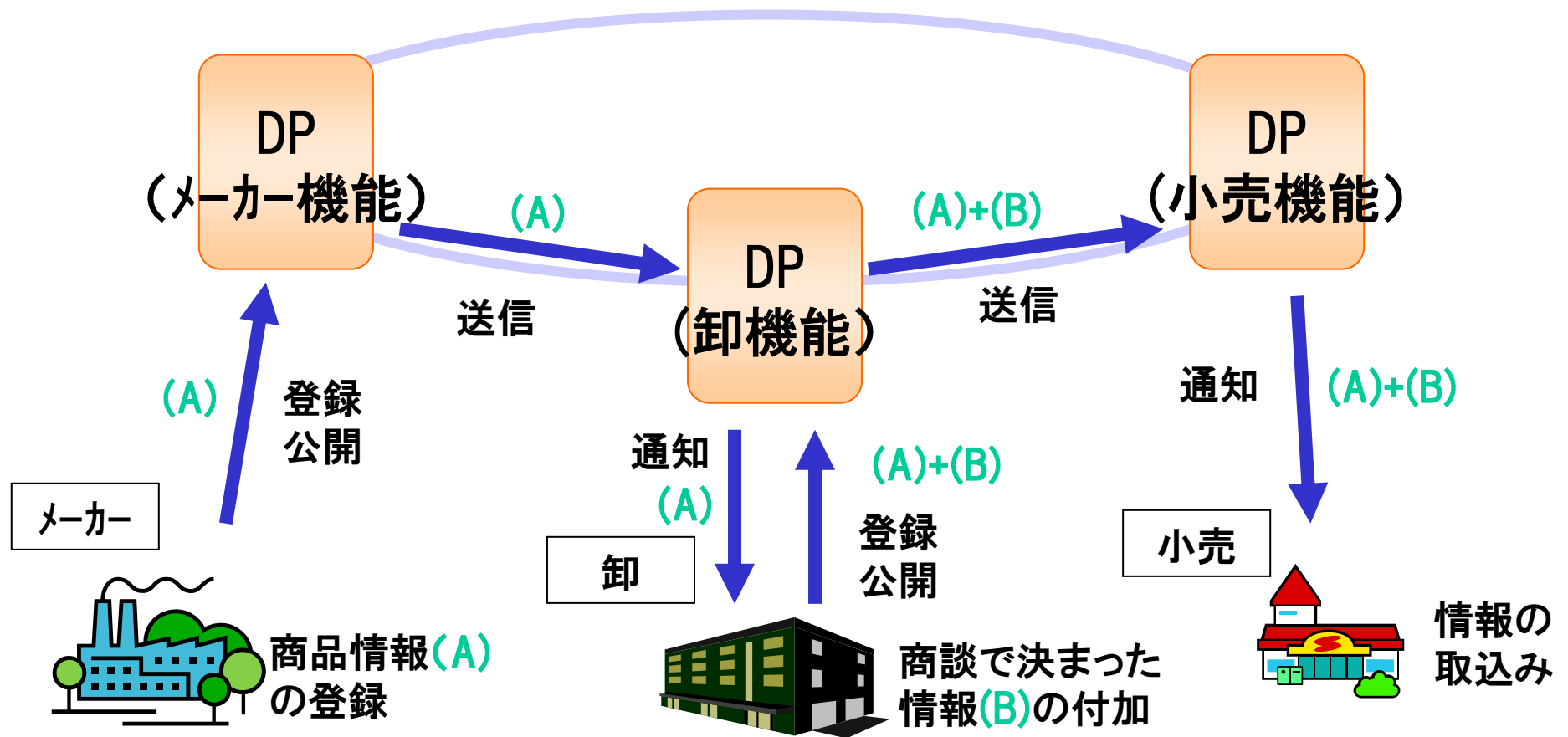
- 本実証実験は、小売業に対する“商品マスタ登録”業務を対象とする。



(経産省H17年度マスタデータ同期化システム実証実験 結果報告書より引用)

【業務プロセス】

- メーカー・卸・小売の3層によるマスタデータの同期化プロセス



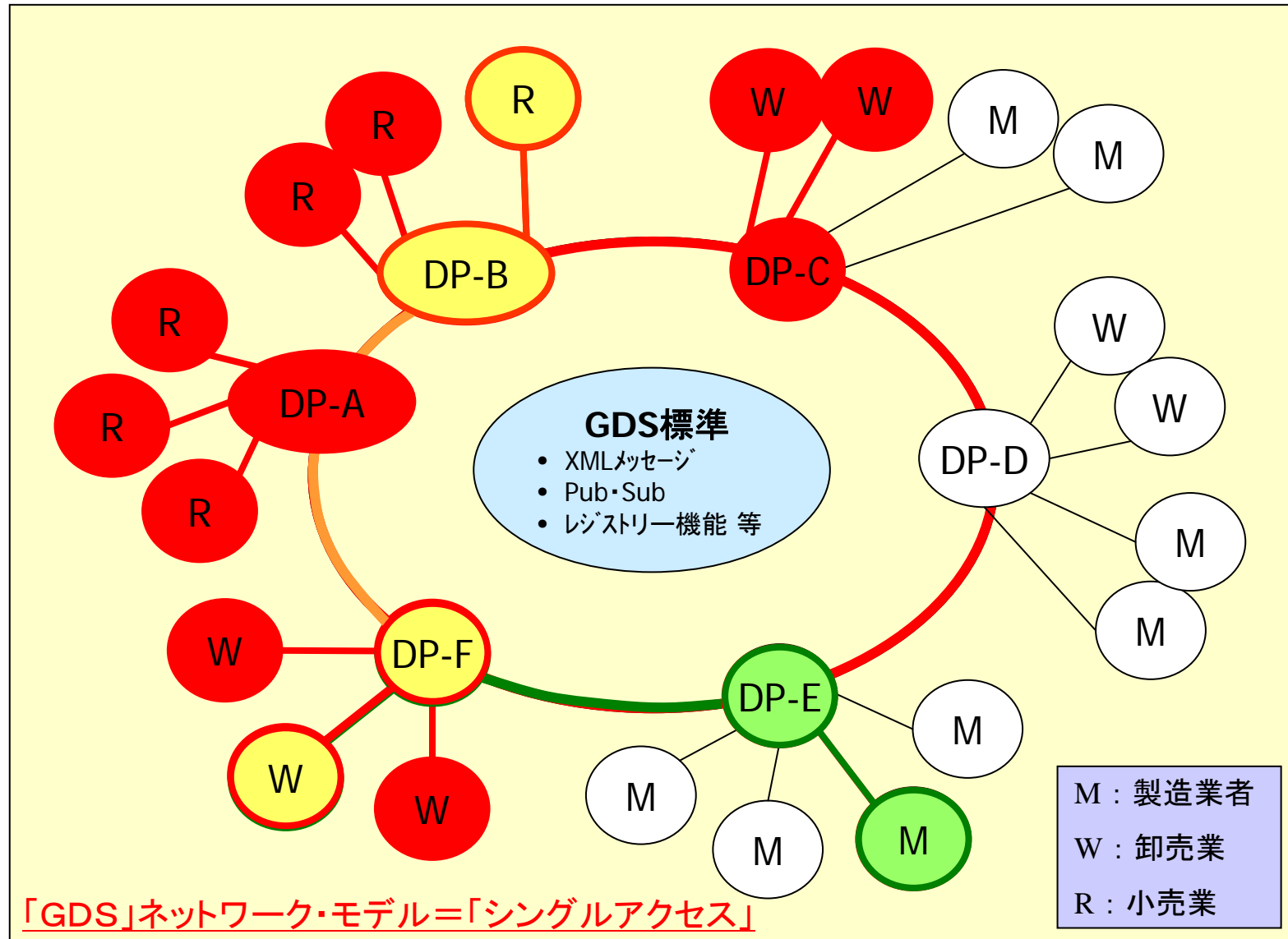
【参加企業】

・ 本実験には、62社の企業・団体が参加

小売業		イオン(株)、イズミヤ(株)、(株)イトーヨーカ堂、(株)シジシージャパン、(株)西友、(株)東急ストア、紅屋商事(株)、ユニー(株)
卸売業	酒類・加工食品	伊藤忠食品(株)、加藤産業(株)、国分(株)、(株)デイリーフーズ、(株)トーカン、(株)日本アクセス、日本酒類販売(株)、三井食品(株)、明治屋商事(株)、(株)菱食
	日用品	(株)アオキコーポレーション、(株)あらた、花王販売(株)、中央物産(株)、(株)ときわ商会、(株)パルタック
製造業	酒類・加工食品	アサヒビール(株)、味の素(株)、カゴメ(株)、(株)加ト吉、キッコーマン(株)、キューピー(株)、キリンビール(株)、(株)工藤パン、月桂冠(株)、サッポロビール(株)、サントリー(株)、宝酒造(株)、(株)ニチレイフーズ、日清オイリオグループ(株)、日清フーズ(株)、(株)ミツカンドライ
	日用品	エステー化学(株)、花王(株)、(株)カネボウ化粧品、小林製薬(株)、サンスター(株)、(株)資生堂、プロクター・アンド・ギャンブル・ファーマー・イースト・インク、ユニリーバ・ジャパン(株)、ライオン(株)
データ・ツール		(株)ジェフネット、(株)野村総合研究所（ビズマート）、(株)ファイネット、(株)プラネット、(財)流通システム開発センター、アジェントリックス（旧ワールドワイド・リテイル・エクスチェンジ）
運営・技術支援企業		(株)インテック、(株)サイバーリンクス、日本アイ・ビー・エム(株)、日本オラクル(株)、日本ベリサイン(株)、富士通(株)、マイクロソフト(株)

（経産省H17年度マスタデータ同期化システム実証実験 結果報告書より引用）

【実証実験から得たもの】

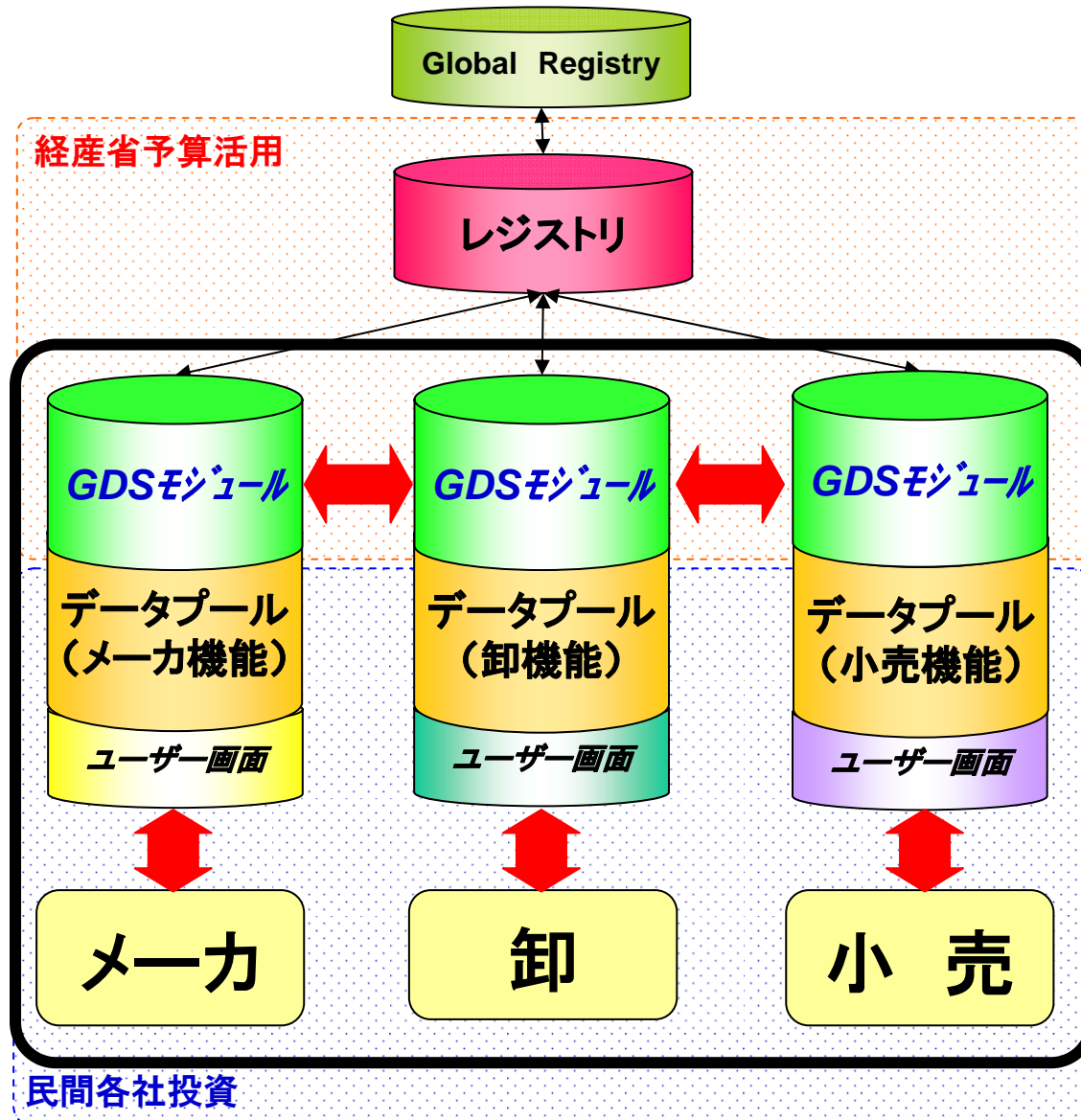


【実証実験から得たもの】

- 実用化にむけての課題が明らかになった。
 - マスタ項目に関する修正・追加
 - 商品階層への対応
 - データ品質のレベルをあげるための工夫
 - プロセス・メッセージの追加(受領通知、など)
 - 3層以外の取引形態の考慮(直取引、など)
 - 共通セキュリティ基盤の構築
 - ユーザーインターフェースの使い勝手
 - ユーザー企業における社内システムの対応
- 共通課題、DP企業の課題、ユーザー企業の課題と分類し、
2007年度の実用化にむけて、これらの課題解決を行っている。

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ

- 共通事項として、標準化すべきもの
 - GCIジャパンGDSWGにて標準化案を作成
- DP事業者の負担に依存するもの ユーザーインターフェース
 - 業務要件を伝え、メンバーのDP事業者がそれぞれ検討
- 各社の負担に依存するもの 社内のしくみとの連携、業務フローの変更に関わるもの
 - GDSWGでの議論をもとに各企業にて、検討



GCIジャパン

開始時の 実用化領域

【ユーザ企業：実業務としてのGDS運用】

- GDS対応の項目への対応（既存修正or新規開発）
- GDS対応業務フローの確立

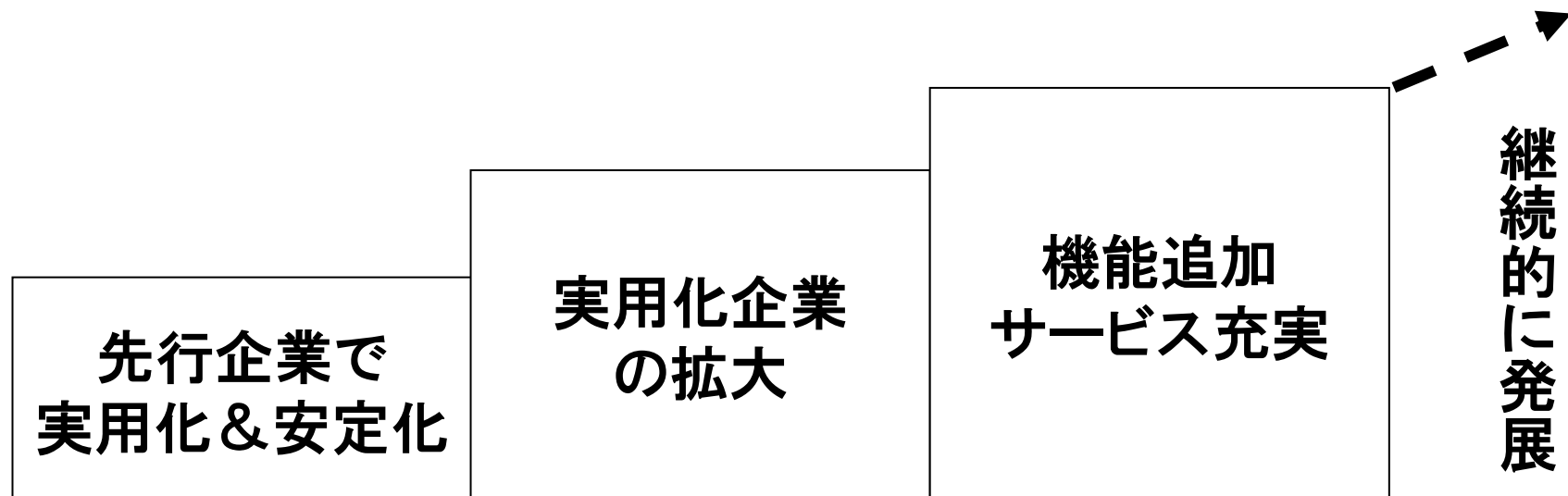
【DP事業者：実業務としてGDSサービス運用】

- ユーザ画面の開発
- *GDSモジュール*組込とのインターフェース開発
- GDS対応の項目への対応（既存修正or新規開発）
- 課金体系の設定

【追加メッセージ：受信確認メッセージ】

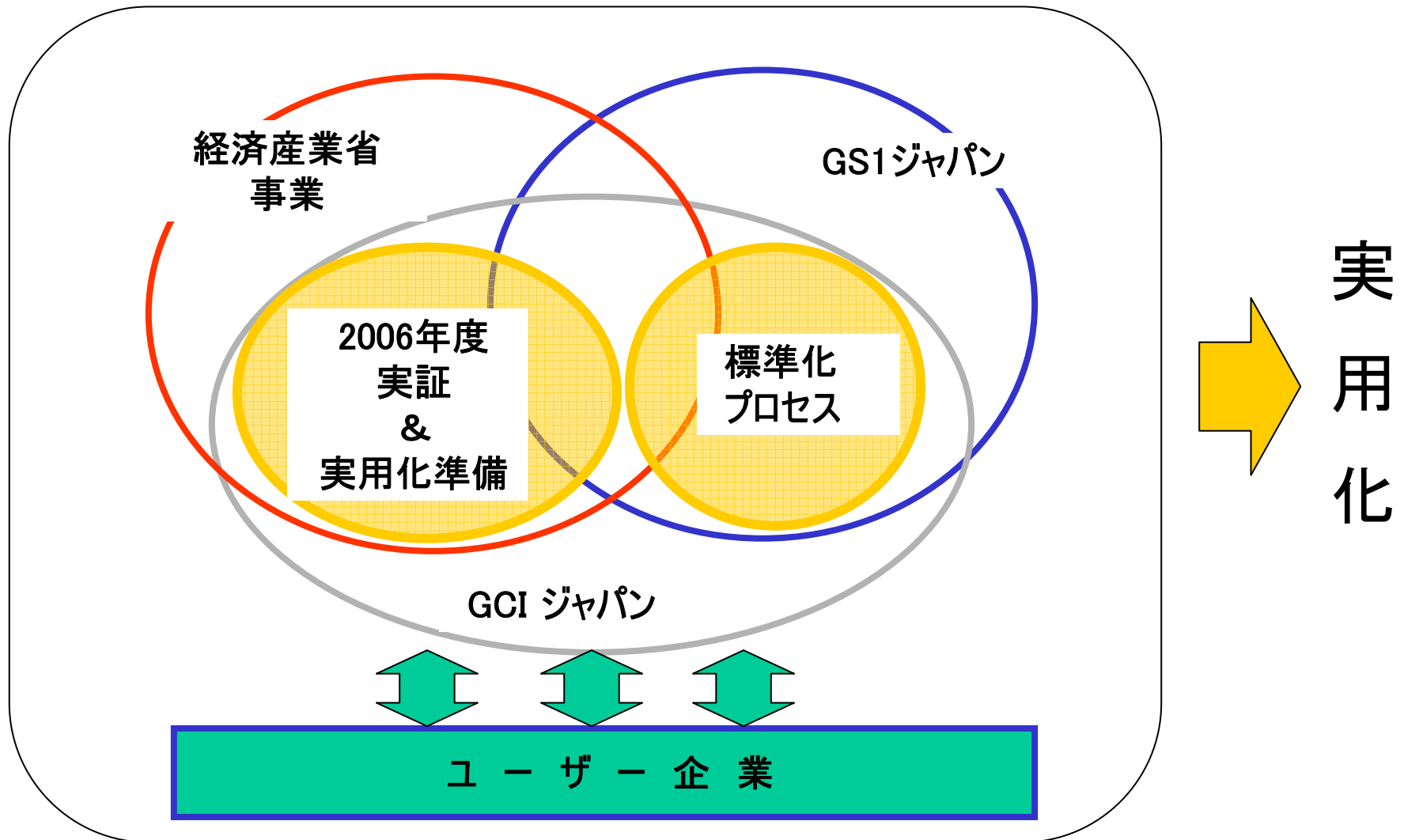
GDS実用化開始のステップ

06年モデルで実用を一部の企業からスタートする。



- GDSを実運用していく上では、標準の策定および維持管理が、キーである。
- 標準は、必要に応じて、見直す。
 - 新規参加組みからの標準化依頼項目
 - ビジネス環境の変化、法制度の変化に対応
 - グローバルとのすり合わせ
- 標準を維持するためのしかけを確立
 - 標準化プロセス

1. GCIジャパンの紹介
2. 商品マスタ登録の現状と課題
3. マスタ同期化(GDS)とは
4. マスタ同期化への取り組み
5. 05年度の実証実験
6. 06年度の活動－実用開始に向けて
7. まとめ



- GDSは、利用者による標準化および標準維持の継続的な活動を含む。
- GDSに関する議論は**全ての当事者**
(ユーザー企業・データベース事業者・ITベンダー)
が一緒に行う。
- GDSの実用化には、**共通で作り上げる部分と、参加企業各社が各自で作り上げる部分の両方が必要。**

実現は目の前！



ご清聴ありがとうございました。

日本GCI推進協議会 URL

<http://www.gci.dsri.jp/>

GCI URL

<http://www.gci-net.org/>